平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	憲法A (Constitutional Law A)			授業コード	E016901
担当教員名	鈴木　照夫			科目ナンバリングコード	E30503
配当学年	3	開講期	前期		
必修・選択区分	選択必修	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	他の科目の修得を履修条件とすることおよび人数制限は行いません。				
受講心得	・講義内容をしっかりとノートにとってください。 ・私語をしないようにしてください。 ・携帯電話等は電源を切って鞄の中にしまっておいてください。 ・六法その他日本国憲法の条文を参照できるものを持参してください。				
教科書					
参考文献及び指定図書	「憲法」 芦部信喜著　高橋和之補訂(岩波書店)				
関連科目	日本国憲法、憲法B、行政法、労働法				

授業の目的	日本国憲法は、専断的な権力を制限して広く国民の権利・自由を保障するという立憲主義の思想に基づく憲法である。この立憲主義の考え方をしっかりと身につけたうえで、日本国憲法の内容、現実の社会における運用を理解することが目的です。
授業の概要	憲法Aでは、日本国憲法の基本理念、人権総論、包括的基本権と法の下の平等および精神的自由権を取り扱います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： オリエンテーションおよび憲法の意義 講義の到達目標、授業計画、教科書・参考図書、受講上の注意事項、評価方法などについて説明した後、「憲法」とはどういう「法」かについて概説します。	ノート整理(2h)
第 2 週 ： 立憲主義 個人の権利・自由を確保するために国家権力を制限することを目的とする立憲主義の意義について説明します。	ノート整理(2h)
第 3 週 ： 日本国憲法の基本原理 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義という日本国憲法の基本原理とそれら相互の関係について説明します。	ノート整理 事例について考える(4h)
第 4 週 ： 人権総論(1) 日本憲法における人権の観念は、憲法１１条に最もよく具体化されています。そこで表されている人権の固有性、不可侵性、普遍性について説明します。	ノート整理 事例について考える(4h)
第 5 週 ： 人権総論(2) 人権の内容について、自由権、参政権、社会権に大別して説明します。	ノート整理 事例について考える(4h)
第 6 週 ： 人権総論(3) 人権の享有主体に関して、天皇・皇族、未成年者、法人、外国人の人権について説明します。	ノート整理 判例検討(4h)

第 7 週 ： 幸福追求権 「新しい人権」の根拠となる規定である憲法１３条の「幸福追求権」の法的性格について説明した後、プライバシーの権利および自己決定権の意味を考察します。	ノート整理 判例検討(4h)
第 8 週 ： 法の下の平等 法の下の平等の意味、違憲審査の基準および具体的内容について説明します。	ノート整理 判例検討(4h)
第9週 ～ 精神的自由権（1）―内心の自由 **第11週 ：** 内面的精神活動の自由に関して、思想・良心、信教の自由および学問の自由の保障の意味、内容およびその限界について説明します。	ノート整理 判例検討(4h)
第12週 ～ 精神的自由権（2）―表現の自由 **第 15 週 ：** 表現の自由の意味、内容および違憲審査基準について説明します。さらに、集会の自由、集団的行動の自由、結社の自由、通信の秘密に関して、それぞれの意義と限界について概説します。	ノート整理 判例検討(4h)
第16週 ： 期末試験 第１週から第15週までの内容について試験を実施します。	ノート・資料整理(4h)

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	身近な社会関係において、憲法の果たす役割を考えることができる。
【知識・理解】	日本国憲法の内容、現実社会における運用について基本的知識を身につけている。
【技能・表現・コミュニケーション】	現実社会において憲法が果たす役割を的確に説明することができる。
【思考・判断・創造】	立憲主義の考え方を身につけ、その上で憲法の今日的課題について論理的に考えることができる

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	**10点**			
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**70点**			
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	**10点**			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	**10点**			

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等（提出物）	
発表・その他（無形成果）	